

34組御遠忌通信

今、いのちがあなたを生きている

第3号

2009年6月24日発行

— 宗祖としての親鸞聖人に会う —



男女共生への願い



明泉寺住職
水谷 友重

私が大谷大学を卒業し、教師となったのは昭和五十七年の春でした。当時は同じ単位を取得しても、男性には僧都が与えられるのに、女性には入位しか与えられず、無論女性住職はまだ認められていませんでした。平成三年、男性の後継者を欠く寺院に限定して、女性住職が任命されるようになりました。私は父(十三世住職)の病死、母(十四世住職)の病弱の後を引き継ぎ、平成十六年に代務者となり、平成十八年に十五世住職に就任しました。寺族として過した頃に比べて、住職となった現在は、新しい視点に立って、寺の

在り方を見つめるようになりました。

三十四組には、現在女性住職は唯一人。心細い思い

もしておりますし、男性中心のものの捉え方に、憤り

を感じる事もあります。間衣で外出したり、葬儀の折

などに、世間の方々に好奇の目で見られる事もありま

す。ミスをすれば、「女だから……」発言すれば「女の

くせに」と陰でささやかれたり、また声明では、男性

の声に合わせてられない辛さもあります。

平成八年、宗務所に女性室が開設されて以来、宗門

も「男女平等参画」の課題に取り組み始めております。

親鸞聖人が「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、

りけり」（聖典64）と受け止

められたその「一人」の発

見。それが、「御同朋・御同行」の在り方につながると、

私は思います。誰しもが重い存在であり、その一人一人が本願に出遇う事を願わ

れているのだと思います。当山の明治初期までの過去

帳には、女性子供の殆どは、法名のみで俗名は載ってお

りません。『塗師屋○右衛門母』と言う具合です。驚

くべきは『釘屋○左衛門孫』などともあります。戸主の

孫だけでは、父さえわかりません。戸主の長男あるいは次男の子でしようか。昔

の過去帳を開くとき、この時代の女性や子供の立場を、

私は万感の思いで眺めております。名前さえ残せなかつ

んな思いで生きてきたので

しょうか。さらに昔の鎌倉初期、恵信

尼（宗祖の奥方）は女性として、また自立した一人の

念仏者として、立派に生きられた方であったことは、遺

された文書によっても明らかです。「弥陀の本願」によ

り、すべての人は、無差別平等に救われます。女性室

は宗門に身を置く女性たち

「願もって力を成す。力もつ

て願に就く」（聖典199）に生き、

また大経の第三十五願（聖典21 女人往生の願）を力

としてきた本願の歩みなのです。男性も女性も、その

立場や特性は異なるけれど、互いに認めあい、理解しあ

い、心を配って、響きあう、よい関係を結び、共に歩ん

でいけるようにと私は希望

勇氣をもつて、歎異の精神

願もって力を成す。力もつ

て願に就く」（聖典199）に生き、

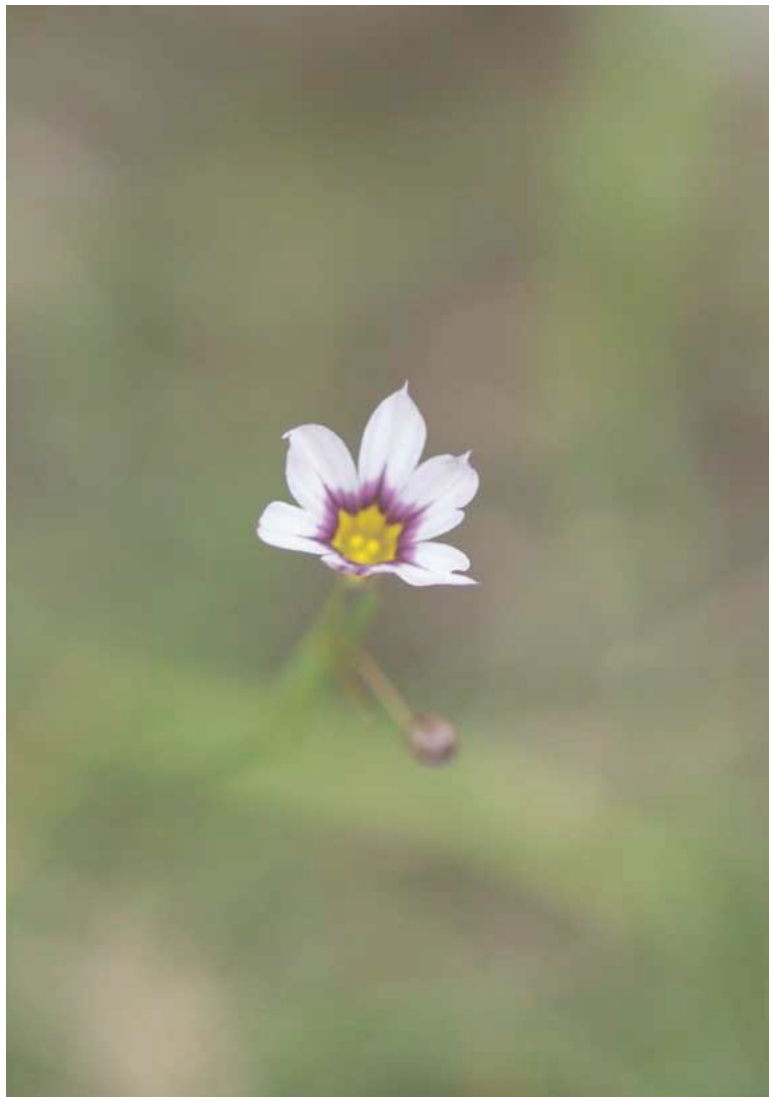
また大経の第三十五願（聖典21 女人往生の願）を力

としてきた本願の歩みなのです。男性も女性も、その

立場や特性は異なるけれど、互いに認めあい、理解しあ

い、心を配って、響きあう、よい関係を結び、共に歩ん

でいけるようにと私は希望

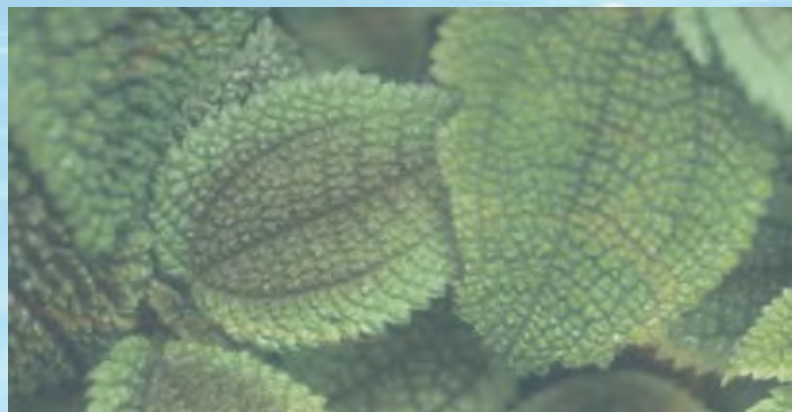


御遠忌に思う



専念寺副住職
曾我 一洋

きたる2011年に、私は親鸞聖人750回御遠忌を迎えることになりました。50年ごとに営まれてきた



この御遠忌は、その時代に生きた人々の、念仏の信心の確認と相続であったと思います。そのような法灯を750年間受け継いできた歴史の重さを感じます。そして、この歴史の末端に私たちがおり、さらに未来に向けて念仏の教えを相続していく、そのことがこの御遠忌を勤めていく意義なのだと思えます。

親鸞聖人は、『教行信証』の最後に、「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。」との道綽禅師の言葉を引かれ、念仏の教えが代々受け継がれて未来の人々へ伝えられていくことを願われました。教えが現代の私たちにまで伝えられてきたということは、顔も知らない何百年前の

人々が、後の世に伝えていきたいという願いを持って伝えられてきたのであります。いったい、何を伝えようとしたのでしょうか。今から500年前、蓮如は念仏の教えをわかりやすく伝えるために『御文』という手紙を各地の門徒に出し、多くの民衆をひきつけ、本願寺を大きく展開していきました。その『御文』では、とくに「在家のまま、煩惱具足のまま救われるのだ」「念仏しなさい」「信をとりなさい」といったことを強くおっしゃっています。現代では、「念仏すれば、煩惱を持ったまま救われるのだ」といわれても、とても納得できないでしょう。合理的な価値観、道徳的な価値観からしてもおかしい、となるでしょう。しかし、そこには、時代状況を問い、自己を問う

視点があるのだと思います。豊かさや繁栄を求めながら他人を傷つけていく競争社会、確実に昔に比べて社会が「進歩」しているはずなのに、不安や恐れ、苦悩は広まって、社会全体が混乱しているように感じられます。自らの思いを立場とす

るのではなく、すべてのものが等しく救われる念仏の立場から時代を見、自己を見ていくことが問われているように思います。念仏の教えが私たちに問いかけているのだと思います。先人たちが何を「後生の一大事」として大切にしてきたか、そこに込められた願いをたずねていく、そしてそれを後世に伝えていく、それが750回御遠忌なのだと思えます。

お知らせ

「34組」とは静岡から藤枝・島田に在る真宗大谷派（東本願寺）寺院の集まりです。34組では、同朋教室や推進員養成講座など一寺院の枠組みを超えた共同教化に主眼を置き、当該地域のご門徒を中心対象に様々な教化活動に取り組んでいます。34組の具体的な活動については、当通信または各ご寺院にてお知らせしています。皆様のご理解と、ご参加をお願い申し上げます。



現代社会の闇と光。考え、行動する大谷大学が全国を巡回するシリーズ・セミナー。

心・わたし・社会

主催 大谷大学同窓会
NPO法人 弘道舎

仏教公開セミナー

入場無料

開催日時: **2009年8月1日(土)**
午後2時～4時

講師: 池上 哲司 大谷大学教授

講題: 「今、ここに 生きるといふこと」

会場: グランシップ10階1001-1会議室
(JR東静岡駅南口 徒歩3分)

お問合せ **054-641-2156**(大谷大学同窓会静岡県支部 熊谷)
詳しくは **www.zingensya.jp**



週末は混雑が予想されます。近隣には他の駐車場がございますので、公共交通機関をご利用ください。

34組寺院

静岡別院	静岡市葵区屋形町 50	054-253-1737
敬信寺	島田市旗指 3050-1	0547-37-2502
蓮生寺	藤枝市本町 1-3-31	054-641-2156
常光寺	静岡市葵区常磐町 2-4-3	054-252-8930
西敬寺	静岡市駿河区大谷 5105	054-237-5466
福泉寺	静岡市葵区大工町 4-1	054-252-3732
明泉寺	静岡市葵区上石町 3-1	054-253-1734
願勝寺	静岡市葵区車町 50	054-253-3665
真勝寺	静岡市葵区長沼 2-18-23	054-261-3328
明通寺	静岡市清水区入江 3-6-30	054-367-0195
専念寺	静岡市清水区上 1-10-14	054-352-6445
専長寺		